

**No title available**

Publication number: JP61191609 (U)

Publication date: 1986-11-28

Inventor(s):

Applicant(s):

Classification:

- international: *H01Q1/24; H04B1/08; H01Q1/24; H04B1/08; (IPC1-7): H01Q1/24; H04B1/08*

- European:

Application number: JP19850074413U 19850520

Priority number(s): JP19850074413U 19850520

Abstract not available for JP 61191609 (U)

Data supplied from the **espacenet** database — Worldwide

# 公開実用 昭和61-191609

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭61-191609

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)11月28日

H 01 Q 1/24

B-6707-5J

H 04 B 1/08

Z-6745-5K

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 AM受信機を内蔵する音響機器の端子板

⑯ 実 願 昭60-74413

⑰ 出 願 昭60(1985)5月20日

⑱ 考 案 者 高 橋 文 明 門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑲ 考 案 者 岩 瀬 友 宏 門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑳ 出 願 人 松下電器産業株式会社 門真市大字門真1006番地

㉑ 代 理 人 弁理士 中尾 敏男 外1名

## 明 細 書

## 1、考案の名称

AM受信機を内蔵する音響機器の端子板

## 2、実用新案登録請求の範囲

複数の信号入出力端子とAM受信用アンテナ端子等を有する樹脂成型体からなる端子板の一部に機器の組立調整工程時にAM受信用フェライトアンテナの仮保持を行なう保持部を一体成型したことを特徴とするAM受信機を内蔵する音響機器の端子板。

## 3、考案の詳細な説明

## 産業上の利用分野

本考案はAM受信用フェライトアンテナを有するAM受信機を内蔵する音響機器に用いる複数の信号入出力端子を有する端子板に関するものである。

## 従来技術

従来、AM受信用フェライトアンテナを有するAM受信機内蔵の音響機器は組立工程中の搬送・調整時に、フェライトアンテナと、AM受信機用

[7] の回路を有する基板を機器組立前に準備する時点に於てその回路の調整を行う際、フェライトアンテナ、回路各々に特性上のバラツキがあるために、一組にして調整を行っている。

5 第3図は、従来のオーディオ機器の構成の一例を示すものである。第3図において、12は複数の信号入出力端子を有する端子板、13は後面板、14は前パネル、15はAM放送を受信するためのフェライトアンテナを示す。17はこのフェ  
10 イトアンテナを保持する保持部品で、後面板13にねじ止めされ、アンテナが指向性を有するため、回転軸16を持ち、180°連続的に方向を変化  
させることが可能である。18はAM受信機用の回路を有する基板、19はシャシーである。

15 第3図に示した、オーディオ機器の完成品に使用されるアンテナを支持する支持部品17は、従来から、オーディオ機器の後面板13に組み付けられるため後面板13組み付け以前に回路調整を行  
20 う時使用できない。このため回路調整時はアンテナ接続端子に上記フェライトアンテナを接続した

1 ままぶら下げておいたり、搬送用トレイに入れて  
おくなどの方法がとられていた。

考案が解決しようとする問題点

しかしながら従来の方法では、組立工程、搬送  
5 時の振動で、フェライトアンテナと、AM受信機用  
の回路を有する基板の破損、さらにアンテナ線の  
断線などの不安定要素が生ずる。本考案は前記従  
来の問題点を解決し、さらに調整時には基板上の  
調整部品を避けながら、簡単にフェライトアン  
10 ナを仮保持できる端子板を提供することを目的と  
している。

問題点を解決するための手段

上記問題点を解決するために本考案のAM受信  
機を内蔵する音響機器の端子板は、複数の信号入  
15 出力端子等を有する樹脂成型体からなる端子板の  
一部に機器の組立調整時にフェライトアンテナを  
仮保持ができる保持部を一体成型した構成を備え  
たものである。

作 用

20 本考案は上記した構成によって、機器の組立調

整時にフェライトアンテナを端子板に一体成型した保持部に仮保持できるようにしたため、組立工程、搬送時の振動でフェライトアンテナおよび回路基板の破損を防止できるものである。

#### 実施例

以下、本考案の一実施例のAM受信機を内蔵する音響機器の端子板について、図面を参照しながら説明する。

第1図は本考案の一実施例におけるAM受信機を内蔵する音響機器の端子板の斜視図を示すものである。

第1図において、1は樹脂成型体からなる端子板、2～4は各入出力端子、5は外部アンテナ接続端子、6はAM放送受信用フェライトアンテナ接続端子、7は端子板を基板に半田付するための電極である。8は端子板1に一体的に成型されたフェライトアンテナを機器の組立調整時に仮保持するための保持部でありフェライトアンテナ嵌合用凹部8aと一對の弾性を有する保持用リブ8bとからなる。なお保持部8は機器の完成時には後

□

面板により覆われるため機器の外部から見えないように構成される。

保持用リブ 8 b は弾性を有するため、フェライトアンテナの着脱が容易である他、第 2 図に示したように、フェライトアンテナ 1 5 が端子板 1 に対して前後にスライドされる工夫がなされている。これは端子板が半田付されているチューニング回路を含む基板上の部品を調整する際、その回路の上方に、アンテナが仮保持されていると、作業性が低下するため、前方に引き出すことができ、搬送時には、基板上方に押し込めることにより障害にならないよう工夫がなされている。

以上のように本考案の一実施例の端子板によれば、機器の組立調整時にフェライトアンテナ 1 5 を端子板 1 に一体的に形成された保持部 8 に仮保持することができるため、組立調整時、フェライトアンテナ 1 5 をアンテナ接続端子にぶら下げておいたり、搬送用トレイに入れておくことなく調整等が行なえ、搬送時の振動等によりフェライトアンテナが破損したり、アンテナ線の断線が発生

□ することを防止することができる。

#### 考案の効果

以上述べてきたように、本考案による端子板を使用すれば、極めて簡単にアンテナ仮保持ができ、  
運搬回路調整を合理的に行うことが可能となり、  
実用に大いに有効であると考えられる。

#### 4、図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例におけるAM受信機を内蔵する音響機器の端子板を示す斜視図、第2図は同端子板にフェライトアンテナを仮保持した状態の要部斜視図、第3図は従来の音響機器の斜視図である。

1……端子板、2, 3, 4……各入出力端子、  
6……フェライトアンテナ接続端子、8……保持部、8a……フェライトアンテナ嵌合用凹部、8b……保持用リブ、15……フェライトアンテナ。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 ほか1名



## 第 1 区

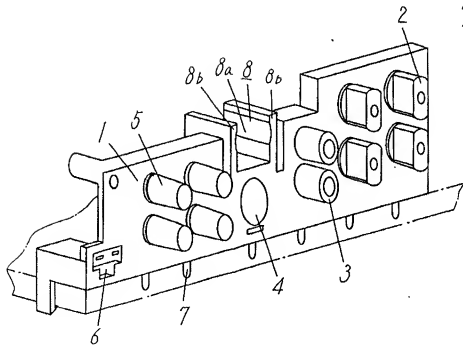
1---端子板

2.3.4--入出力端子

8---保持部

8a---フエライトアンテナ嵌合用凹部

8b---保持用リブ



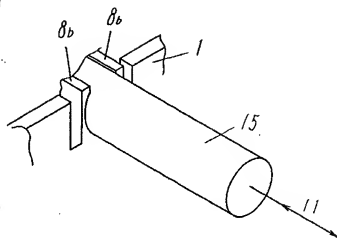
71

代理人の氏名 実備( )

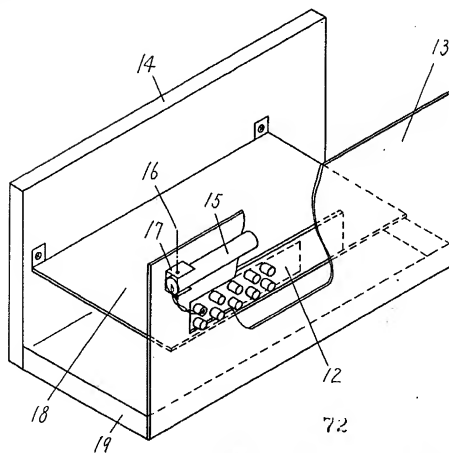
弁理士 中 尾 敏 男

ほか 1 名

第 2 図



第 3 図



代理人の氏名 実開 61-1916  
井理士 中 尾 敏 男  
ほか1名